

# 先輩寄稿

## 「本当の姿」と 「一人の時間」について

皆さんのイメージする建築家の仕事とは？

学生から社会人へ、人生の大きな転期に差し掛かっている皆さんに、建築の仕事をしている私から関連する二つの話をしようと思います。一つは建築家の仕事の「本当の姿」について、もう一つは「一人の時間」についてです。

建築家の仕事と聞いて皆さんは何をイメージするでしょう？大きな紙に太いペンで自由な線を引き、小高い丘の上に流れるような曲線のホテルを描き出す。模型やCGで形状を確認しながら、何の変哲もないビルが立ち並ぶ町に緑に覆われた斬新なカタチのオフィスビルをデザインする。だいたい、そんなイメージじゃないでしょうか？SNSやその他媒体で私の仕事をチラ見する友人知人も、私のことをそんな風に思っているよう



筆者の設計事例 1



筆者の設計事例 2

花岡 竜樹

(平成十八年卒)

です。実際、建築家が日々どのように設計を進めているかなんてほとんど知られていませんから、建築学を学びたいと考えた



高校三年生の私がイメージする建築家の姿も同様のものではない。

でもこれは表向き建築家の姿であって、設計にあたって本当に重要な部分とはかけ離れたイメージなのです。私も、大学、大学院での設計の勉強、そして実務の設計を重ねるうちに、表向きの姿と「本当の姿」は全く別物であることに気付きました。では、「本当の姿」とはどんなものなのでしょう？

### 考えて検討して、山ほど考えてまた検討する

建築家の設計する建築は、小さな住宅から数万人が利用するスタジアムまで大小様々で、一つとして同じものはありません。図面も模型も何もない、場合によっては敷地すら決まっていな完全無の状態からスタートし、建てるべき建築の姿を最大限の想像力でイメージしながら、その建物に関連しそうなたくさんの方のことを考え、地道に全体を構成してゆきます。

雨風の強さや積雪量など地域によって異なる気象条件、地震や関連災害のリスク、これらに対してどんな構造にすれば性能を満足させられるか。柱や梁、壁のサイズ、組み立て方をどうすればしっかりとして、かつ作りやすいものになるか。日差しや雨風に対して外壁や屋根の耐久性をどの程度のものとするべきか。どこを建物の出入口とするか、それは一つなのか複数あるべきなのか。いくつもの部屋の配置をどうすれば、光や風を十

分に取り込めるか、あるいは取り込むべきでないか。夏と冬で異なる気温や太陽の位置をきちんと考慮できているか。部屋をつなく廊下や階段などの動線はどこにどのように通すと気持ち良く動きやすいか。扉の位置や大きさ、部屋の広さや天井の高さ、廊下の幅や階段の形状はどうすれば使いやすく飽きがこないか。窓の大きさやガラスの厚さ、外壁の素材や色、屋根の形状や軒の深さをどのようにしておけば快適か。頑丈にパーツを止め付けるにはどんなボルトやビスを用いなければならないか。考え検討すべきことは山ほどあります。

やがて建築の全体像が見え始めたら、また考えます。周辺の自然や町と調和させるのか、あるいは目立たせたり、他のものを引き立てるような別の関係性を持たせるのか。法律違反をしていないか、十分に安全な計画になっているか。毎日使って不便はないか、退屈にならず、新たな発見がある空間か。平常時だけでなく、災害時に危険な状態とならず、安全に避難ができる計画か。建設費は予算内に収まるのか、予算内に収めるために何を諦め、何を残さなければならぬのか、などなど。検討項目はまだまだいくらかでも出てきます。きれいなスケッチを描いたり、模型やCGでデザインを検討したり、よくイメージされる建築家の姿とはずいぶん違うでしょう？

### 建築デザインの本質は「判断」の積み重ね

では、建物の規模や外観のデザイン、部屋や動線、構成部材、

法律、安全性、ボルト一本までたくさんの検討項目のそれぞれに対して、何をすれば自分が考えた建物ができあがるのでしょうか？それはずばり、「判断」です。冒頭で投げかけた建築家の「本当の姿」とは、クリエイティブなデザインではなく目には見えぬ「判断」であり、その積み重ねこそが設計、建築デザインの本質なのです。そして、建築の良し悪しを決定付けるのが、この夥しい「判断」の良し悪しなのです。

「判断」のために重要なのは、どれほど事象に真剣に向き合ったか、考え得るあらゆる視点から総合的な検証ができていたかどうかです。時にそれは、建物設計の枠をこえ、誰かの人生を大きく変えることになるかもしれない、より重大なことに発展したり大きな影響を及ぼしてしまうものにもなります。私は常にそのことを意識して設計に臨むので、半端ない緊張感の中にいます。良い「判断」のために、とてもたくさんの時間を使つて悩みまくることもしばしばです。

### 真剣な「判断」が集積して一つの窓になる

「判断」について簡単な例で説明します。海と空が広く気持ち良い町の海辺に、景色を眺めることが好きな人のための戸建て住宅を設計するとして、その住宅の一室に取り付ける窓について考えてみましょう。その部屋の窓は海がよく見える方向に一つだけにするという判断を既に行い、次に、その窓をどんな大きさにすべきかの判断を行わなければならないとします。

窓をできるだけ大きくすると海の景色がよく見えて気持ちが良い、さらに、外の光がたくさん入るので部屋は明るくなりやすい。一方で、暑さや寒さの対策を行う必要がありそうです。夏の日差しに対しては、窓に取り付けるカーテンやブラインドが真っ先に思い付きますが、そもそも海を眺めるために窓を大きくしようとしているので、これは本末転倒。もし、カーテンやブラインドを付けなければならぬのだとすれば、日差しが気にならない程度の大きさの窓にして何も付けない方が良く判断できるかもしれません。また、外から建物を見たときに、いつもカーテンが閉まっていたり、窓が小さく閉鎖的な家だったとすると、海や空が広く気持ちの良い町の雰囲気になりにくくなるかもしれません。どうやら別の方法を考え、カーテンやブラインドは設置しないと判断すべき状況のようです。

では、軒を出して日差しを遮ることや、日射の熱の中に伝えるにくくするガラスを用いるのはどうか？軒の分建設コストが高くなるし、海辺なので悪天候の折の強風にも十分に耐え得る構造にする必要がある。ガラスはどうだろう？高性能のガラスはもちろんコストは高く、窓自体の重量もとても大きくなるけど、夏の暑さだけでなく冬の寒さにも効果があるので一石二鳥。軒やガラスはコスト面と構造をしつかりさせることができればメリットが多いので、これらの方法で窓は大きくし、海が気持ち良く眺められることを優先するという判断ができそうだ。高くなる分のコストについては、優先順位が低い部分、例えばトイレの窓を小さくするか、寝室のフローリングを少しグレード

ダウンするとか、そのあたりでバランスさせ、構造は窓廻りの柱梁を再検討すればよいと判断できる…。

一つの窓の大小だけでも、様々な視点から起こり得ることを総合的に検証し、どうあるべきかを「判断」することが必要なのです。設計とはそのような作業であり、完成した建物を使う人が感じる建物の良いところ悪いところ、これらはすべて設計した人が下した「判断」の結果なのです。

表面的に皆さんの目に触れるカタチは、建築家の数えきれないほどの真剣な「判断」の集積によって生み出されているものなのだ、今度からぜひそんな目で建築を眺めてみてください。



窓をテーマに設計した住宅のCG パース1



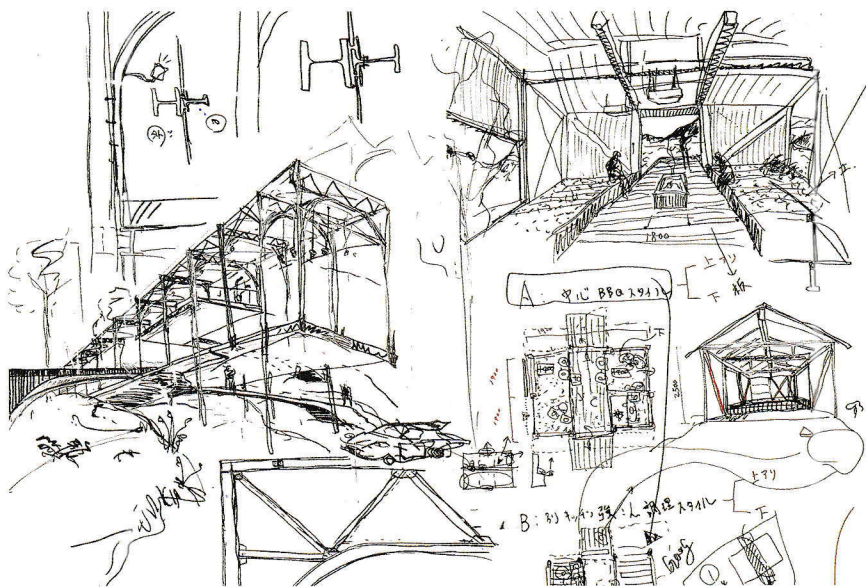
窓をテーマに設計した住宅のCG パース2

## 高校時代に過ごした「一人の時間」

執筆の機会を頂いたので、せっかくなら建築の話をしようにと思い、設計の本質とは「判断」だとお話しました。もう一つ、この「判断」を下す過程にも関係することなのですが、「一人の時間」について話そうと思います。

高校時代、私は毎日をとでも楽しんで過ごしました。クラスのみんなと仲は良かったけれど、親しい友人を多くは必要とせず、貴重な休日をとにも過ごしたい友人はほんの二、三人だけ。ファイヤーストーム（私にはなかなか理解が難しかった）は、みんなが走っている間教室で待機し、終わったら打ち上げには合流する、そんな面倒なヤツでした。休日を「貴重な」と言いつつ、私は帰宅部で学校一のエースだったので時間はたくさんありました。みんなからは、いつも何をしているの？と不思議がられたり。具体的に何をしていたかという、釣り、ギター、ロードバイクなのですが、振り返ると何をしていたかはまったく重要ではなく、まわりの人より「一人の時間」を多く過ごせていたことが貴重なことだったと今となっては感じています。

大勢で時間をともにし、何かを行うことで、一人ではできないことにチャレンジできたり、切磋琢磨しお互いを高めあったり、達成の喜びを分かち合えたり、とても充実した時間を過ごすことができます。一方、「一人の時間」でしかできないこと



一人の時間の建築スケッチ

が確実にあります。例えば今、この文章は私一人で書いています。もし誰かに話しかけられたら、文章のアウトプットは中断してしまいます。文章を生み出すためには、一人の時間でしっかりと頭を働かせる必要があります。皆さんの日々の勉強と気が重い期末テストの関係も同じ。インプットのための授業は先生や友人と和気あいあいですが、アウトプットのテストではしっかりと考え回答をひねり出さなければならず、誰もが「一人の時間」に入り込み、教室は静まり返ります。

設計は「判断」だとお話しました。目標にいたる過程で考えるべき様々なこと、優先順位の決定などの際、良い「判断」をするためにも「一人の時間」は重要になってきます。もちろん検討中に、AとBどちらが良いと思うか、気付けていないリスクはないかなど、人の意見を聞くこともしばしばありますが、最終的に自分が下す自信をもった「判断」のために「一人の時間」は不可欠です。考えて生み出す、ということを行うために必要なのが「一人の時間」だということを知ってもらいたいです。

### クリエイティブな警備員さんの素晴らしい「判断」

先日、とても気持ちの良い経験をしました。私は今、普段勤務している設計事務所の本社オフィスビルから徒歩五分の別のビルで一時的に仕事をしています。本社ビルには二、〇〇〇人ほど、別のビルには二〇〇人ほどが出社します。どちらのビル

も一階のエントランスのセキュリティゲート前にいつも警備の方が立っていて、部外者の侵入を警備しています。セキュリティゲートはカードをかざさなければ開かないのですが、私はそのカードを稀に家に忘れて来てしまいます。会社の名刺だって持っているのだし、部外者じゃないから開けてよ、と思ってしまうのですが、警備員は職務を全うし鉄壁のセキュリティを守っています。そんなときは受け付けで社員確認し一時カードを申請することになります。

つい先日、ちょうど別ビルに入入りし始めて二週間ぐらいのとき、カードを忘れてゲート前で立ち往生していると「あ、開けますよ。七階の方ですね？」と警備の方の声。さらに「念のため名刺を見せていただけますか」と、私が社員であることを確認し、セキュリティもきちんと担保してゲートを開いてくれました。こちらのビルに入入りし始めてたった二週間なのに、その警備の方は毎日ゲート前にただ立っているだけでなく、どんな社員がエレベーターで何階に行くのかまでチェックしているのです。結果、カードを忘れるというだらしない私への親切なサービスを生み出すことができたのです。なんてクリエイティブな警備の方なのだ！と思いましたが、おそらく警備会社の指針としてはNGだと思えます。しかしその警備の方が問題ないと「判断」できる十分な観察を行っていたからこそ、自信をもって実行できたことなのです。毎日ゲート前でただ時間を過ごすのではなく、十分に充実した「一人の時間」を過ごしていたからこそ、その方は自分自身の「判断」により、セキュリティ

テイの確保に加え必要な手助けということを実行できたのだと思います。本当にクリエイティブで気持ちの良いことだと思いました。

### 「一人の時間」でよく考えることの大切さ

建築を含む創作活動にとって、「一人の時間」を大切にしていっしょかりと考へ「判断」することがとても重要だと考へていますが、どんな職業でも、どんな人でも日常をもっとクリエイティブなものにできる可能性があるのだと、その警備の方から教わりました。

皆さんのこれまでは、小学校から高校まで毎年自動的にクラスが変わり、小学校なら六年、中学、高校なら三年という決まった期間で自分を取り巻く環境が変わり、新しい友人、新たな考へに自動的に触れることができました。しかし、高校卒業後は今まででない自由を得ることになり、出会うも出会わないもすべてが自分次第です。姿カタチが何もない始まったばかりの建築設計のような状態から一つの建築を完成させていくように、高校卒業後は、より自分の「判断」に頼らなければならぬ状況が増えてきます。その判断が自信をもって納得できるものであるために「一人の時間」でよく考へる……そんなことが大切だと皆さんに伝えたいと思います。「一人の時間」を大切に、良い人生をクリエイティブしてください。